業　　種	トラック
取組分野	安全重点施策の達成に向けた安全活動取組の連携 横断的な情報伝達及びコミュニケーションの確保
テ ー マ	拠点での取組等を日次で紹介して次の拠点へつなげていく『安全運転リレー』による事故削減目標達成に向けた横断的な連携及び情報共有
取組の狙い	「社内交通・労働安全活動 強化期間」と連動し事故削減目標達成に向けた取組として、拠点（個配センター82 か所）で取り組んでいる安全活動を紹介する。これにより、交通事故削減へ向け全従業員が安全意識を高めるとともに、個配センター間の連携を深め、さらに全社横断的な情報共有及びコミュニケーションを確保する。
具体的内容	**１．実施の背景** 安全重点施策の目標達成に向け、拠点（個配センター）での有効な取組を情報共有し、また、コロナ禍で拠点間のコミュニケーションが取れない状況から、全拠点が参加して情報共有を行う『安全運転リレー』を令和２年８月に実施。令和３年４月からは『<u>安全運転リレーアゲイン</u>』として実施した。 **２．実施方法** ①　スタート拠点は、事故等の削減に向けた取組内容を全ての拠点へ紹介するため、取組内容を本社に提出する手順 ②　本社は、提出された取組内容を安全統括管理者及び事業本部が確認し、コメントを入れる等して社内イントラに掲載。全拠点に配信するとともに、本社コミュニティルームに掲示 ③　日次で次の担当拠点は、上記①と同様に取組内容を作成して本社に提出。本社は、上記②と同様に取組内容を確認して社内イントラに掲載、全拠点に配信する等を実施。 ④　安全運転リレー経過表（別添１参照）により、上記③を繰り返し、全ての拠点の配信等が終了するまで実施 **３．具体的取組内容** 各拠点の取組内容は、バック事故の削減及び削減による台車活用の検証、反射・視覚トレーニング、降雪対応等。その一部は別添２～５参照
取組の効果	①　安全意識の再確認、取組の絞り込み、一体感 事故削減目標達成に向けた取組内容を紹介することにより、拠点内における安全に対する意識への再確認、取組むべき内容の絞り込みができ、また目標達成への従業員の一体感が向上。 ②　他拠点への展開と取り入れ 他拠点が実施している取組に興味を持つことができるとともに、他拠点が実施している取組を自拠点に取り入れて実施できる。 ③　褒める文化 他拠点の取組内容を褒めることができることによる褒める文化の醸成

<table>
<tr><td></td><td>④　事故削減効果
バック時の事故発生件数が減少傾向

<table><tr><td></td><td>令和元年度</td><td>令和２年度</td><td>令和３年度
（11月末まで）</td></tr><tr><td>バック事故増減率
（対前年比）</td><td>33％増加</td><td>15％削減</td><td>11％削減</td></tr></table>
⑤　事故削減による業務軽減
事故発生件数減少傾向による、事故対応等業務の軽減</td></tr>
<tr><td>事業者名</td><td>株式会社流通サービス　事業本部（運輸安全マネジメント事務局）
（連絡先：０４８－９２０－２５００）</td></tr>
</table>

別添１

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1-3-3	1-3-2	1-3-1	2-1-1	1-2-1	1-2-2	2-1-1	2-1-2	1-2-3	2-2-1	2-3-1	2-3-2	2-3-3
畑中C	南寝屋川C	南宮津C	宮C	秋父C	朝霞C	パル入間	静岡C	習志野C	千葉C	しまぜC	中津C	盛岡北C
完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	完

14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
1-3-3	1-3-2	1-3-1	1-1-1	1-2-1	1-2-2	2-1-1	2-1-2	1-2-3	2-2-1	2-3-1	2-3-2	2-3-3
元野C	伊丹C	長岡C	池田C	朝田C	所沢C	宮C	横浜北C	千葉北C	桐毛C	足利C	新C	盛岡南C
完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	完

27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
1-3-3	1-3-2	1-3-1	2-3-3	1-2-1	1-2-2	2-1-1	2-1-2	1-2-3	2-2-1	2-3-1	2-3-2	2-3-3
天雲C	吹田C	彦根C	君津C	入間C	岩槻C	パル熊谷	柏原C	印西泉野C	所西C	小山C	上越C	けんC
完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	完

40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
1-3-3	1-3-2	2-1-2	1-1-1	1-2-1	1-2-2	2-1-1	2-1-2	1-2-3	2-2-1	2-3-1	2-3-2	2-3-3
屋道C	枚方C	牧之原C	目黒南C	東久留米C	草加C	パル川越C	藤井C	佐倉C	千葉拡大支援C	平和C	にいがた東C	いわて県南C
完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	完	

53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65
1-3-3	1-3-2	1-3-1	1-2-1	1-2-2	2-1-1	2-3-3	2-2-1	2-3-1	2-3-2	2-3-3	1-3-3	1-3-2
松江北C	豊中C	豊田C	多摩NTC	久喜C	足立C	花北C	うしくC	つくばC	にいがた西C	仙台南C	東岡山C	姫路C

66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78
1-3-1	1-2-1	1-2-2	2-1-1	2-1-2	2-2-1	2-3-1	2-3-3	1-3-3	1-2-2	2-3-3	2-1-2	2-2-1
刈谷C	本庄C	三郷C	甲斐C	宮前C	つちうらC	前橋C	仙台中央C	藤田C	杉戸C	仙台北C	藤枝C	栃木C

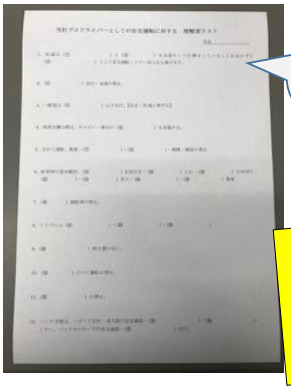
79	80	81	82
2-3-3	1-3-3	2-1-2	2-2-1
ふくしま北南C	陵南C	麻生C	茨城栃木拡大支援C

安全運転センターリレー

2021年4月1日号

発行センター
●畑中センター
●稼働台数　23台
●社員数　25人

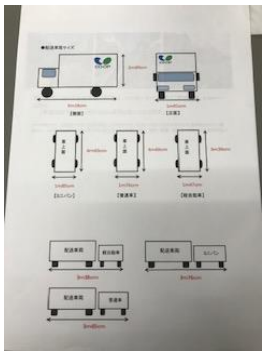
バック事故の削減取り組み



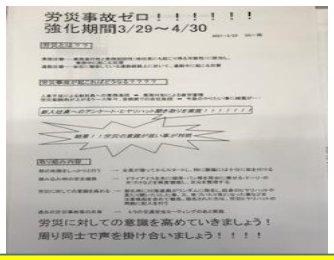
25問出題。
1問4点の採点
～

予習なし！
ぶっつけ
本番テスト！！

当センターでは、47期事故が3件発生しております。その内、2件についてはバック事故です。月例では、車両を活用した実技訓練を軸に安全運動を開催していましたが、今一度原点に戻るために、当社プロドライバーとしてどれ程安全を理解出来ているかの確認を行うため、理解度テストの試験を実施しました。テスト項目は、駐車時の基本動作・バック時での動作手順、当社安全ルールを中心にした設問となっています。テスト結果では、100点以下4人、90点以下9人、80点以下6人、70点以下2人、60点以下2人。日ごろ、現場で安全動作を行っていても、いざテスト問題となると中々難しと社員から声があがっておりました。

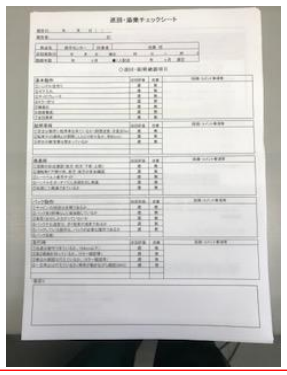


基本に戻る為に、車両の高さ・幅・長さを理解出来るシートを作成しました。シートからも、道幅5m以上あれば離合はスムーズであるが、4m以下になると相手車両が普通車であれば離合困難。新人社員が増えた事を踏まえ、自身が使用している車両の大きさを理解する事で、古い住宅地等では、十分接触



ちなみに、労災事故撲滅にも取組んでいます！！

新人事故撲滅の取り組み



入社2ヶ月、一人立ち1ヶ月未満の新人社員に対し、管理者が添乗指導を行っております。チェックシートを用いて、安全確認動作（基本動作含む）、バック手順や回数、又バックが必要な場所かの判定確認を行います。更に、引継者（管理者）がしっかりと新人社員に対し安全に配送を行える整備、コースメンテナンスや台車活用の指導が行えているかも確認しています。添乗後は、1日の振返りの個人面談を行い、良い分での賞賛事項と改善して貰いたい部分を直接新人社員へ伝え指導しています。また、引継者にも1日添乗した内容を伝え問題点については、新人社員と一緒に考え改善を図り、事故削減に努めています。

○南草津センター取組み報告○

①何故事故が起こるのか？？

②何故事故は減らないのか？

ここから話し合いを始めた結果、もしかして共有も大事だけど、安全ポイントと反射神経が鍵を握っているのではないか！！

【反射・視覚トレーニング風景】

●ユーチューブの人気動画で「反射神経と視覚を鍛えるトレーニング」を見つけ、運転に大切なのは、≪目を動かす≫≪早い反応≫の二点と、安全ポイントの知識が重要です。試験的に、交通安全運動期間中に実施しています。

※3名一組で1人がドライバー役、2人が危険指示役、危険指示役が左右の手を素早くあげ

【死角は視覚で回避する】

トラックの死角は無限に存在する・・

●トラックの死角とは、運転席から見えない部分という認識が

強く、他にも思わぬ死角が存在します。

それは≪ピラー部分≫に潜む死角です

巻き込み事故の多くは、左右確認をした

自転車が通過する際に、ピラー部分に

隠れた瞬間に接触する事故が多く見ら

ます。

乗車姿勢を正しくし、右左折時には目だけ

無事故記録1000日まであと422日！！

安全運転センターリレーアゲイン

2021年6月14日号
安全推進委員
山本　浩将
監修　田尻　優太
●松江北センター
●稼働台数　7台
●社員数　8人
連続無事故●578日

担当者も理解してくれるような検証 の巻

「無事故への取り組みは担当者が理解し行動しないと減らす事が出来ない！！」

日頃から管理者と安全推進委員の山本さんが安全について口酸っぱ～く言っても伝わらないのではないか？・・・では実際にやってみよう。という訳で構内でバックをした配送と台車を使用した場合との時間の差を測定し検証してみました。

皆も始めは「台車は面倒で時間が掛かる～！」との意見も多数でしたが・・・。

では検証レッツ　スターティン！！

構内15ｍ～20ｍのバック時と台車を使用した時間を計測

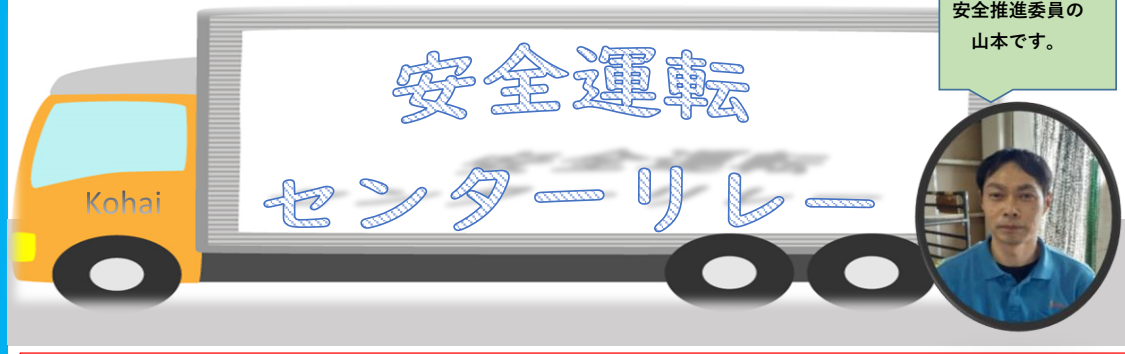
①車両にてバック時基本動作込み⇒平均1分14秒23。

②台車を使用し配送⇒平均1分14秒52。

結果＝時間ほとんど変わらず。

バックした際のリスク、基本動作の手間がある分台車で配送を選ぶ担当者がほとんどでした。

松江北は時間になったらトラックに集まられる班と、職場班が多数を占める特殊なセンターであり、バックを余儀なくされる事から今回の検証より全員が少しでもバック削減への理解と車両を動かさない行動に役立てられればと思います。



安全運転センターリレー

安全推進委員の山本です。

2020年11月9日号
安全推進委員　山本　浩将
発行センター
●松江北センター
●稼働台数　7台
●社員数　8人
連続無事故●361日

安全運転取り組み

チェーン!!カンバック

翌日

10分後

今年も10月よりチェーン講習を3か月に渡り実施します。これは今年2月最後のチェーン講習の模様です。　全員で復習したチェーンを取り掛かっている時（おやっ！）・・・雪が激しくなり（担当者の頭や肩には雪が！！）・・・翌日30cm以上積もりました。こういう雪道はしょっちゅうです（やれやれ）。また、今年の島根はラニーニャ現象により2010年の大豪雪（大晦日トラックに取り残され元旦帰着担当者2名）以来の厳冬となる見込みだそうです。　もっと雪の多いセンターもある事かと思いますが、しっかりと みっちりと雪対策の訓練を実施し、無事故で帰着できるよう努め

センター紹介

所在地は　島根県松江市　です。

まず、砂丘はありません（それは鳥取県です）

センター周辺には国宝松江城（別名　千鳥城）、宍道湖のしじみも有名です。日本一日照時間が少ないですが、日本一肌美人が多い県ですよ～

全員お肌プルプル